

平成 27 年度 公立大学法人首都大学東京  
業務実績評価 項目別評価(素案)  
【各委員評価コメント付き】



Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1)教育内容等に関する取組							
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
1 入学者選抜 ～意欲ある学生 の確保～	【1-01】入試科目の見直し、入試制度の検討		A	2	(評価書) ・平成27年度の一般選抜入試等の結果と入学後の成績を比較分析するとともに、入試制度検討部に提供して、学部・系等での入試改革の検討に寄与した。 ・TA(ティーチング・アシスタント)制度による教育訓練の機会を増やし、また、大学院生への経済的支援を整備している。 ・理系女子学生の進学促進に向けた企画など、積極的な取組が見られる。 ・高専生の推薦枠の拡大など2大学1高専間の連携を強化した。	2	・学部については安定的に志願者を確保している。 ・博士後期課程については種々の取組にもかかわらず、志願者の減少に歯止めがかかっていない。 ・入試に関する分析を行っているが、その結果がどう活かされているのか、明らかにしてほしい。
	【1-02】拡充したTA制度の試行運用等		A			2	・理系女子学生の進学促進に向けた企画など、積極的な取組が見られる。
	【1-03】大学説明会の充実等		A			2	・平成27年度入試の得点分布や入試区分別入学者の入学後の成績分布の調査・分析を行い、入試制度の導入・変更等を行ったことにより一般選抜入試において志願者数と志願者倍率が若干回復した。
	【1-04】理系女子学生の進学促進企画の検証・改善等		A			2	・少子化の中、ほぼ一定の志願者倍率を維持している。 ・TA制度による教育訓練の機会を増やし、また、大学院生への経済的支援を整備している。 ・入試説明会等の情報機会を増やしている。
	【1-05】新たな大学高専連携事業の実施等		A			2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・平成27年度入試や入試区分別入学者の入学後の成績等の調査・分析を行い、入試制度の一部見直しを行った。【1-01】 ・新たなTA制度を試行・検証し、平成28年度の本格実施へ向けて運用改善を行った。【1-02】 ・システムデザイン学部における高専(本科)からの推薦編入枠について、平成29年度入学より現行の4名から8名に拡大することが決定した。【1-05】		(参考意見書) ・入試に関する分析を行っているが、その結果がどう活かされているのか、明らかにしてほしい。 ・成績優秀な大学院生を支援する仕組みの検討が順調に進められている。 ・入試説明会等の情報機会を増やしている。 ・高大連携事業の推進や都立高校との連携を深める努力をしている。		2	・平成27年度の一般選抜入試等の結果と入学後の成績を比較分析するとともに、入試制度検討部に提供して、学部・系等での入試改革の検討に寄与した。 ・学部、一般入試の志願者は若干の変動はあるが、志願倍率は比較的安定して高い状況にある。 ・大学院は博士後期課程を除けば、例年通り定員を満たしている。博士課程は4月入学者が例年より少ない。 ・成績優秀な大学院生を支援する仕組みの検討が順調に進められている。 ・高大連携事業の推進や都立高校との連携を深める努力をしている。 ・2大学1高専間の連携を強化し、意欲ある都立高専生を確保するために、高専生の推薦枠の拡大などについて検討を開始した。	2
2 教育課程・教育 方法	【1-06】総合ゼミナールの開講		A	1	(評価書) ・3,4年生を対象とした総合ゼミナールは、異分野の学生のディスカッションなどを取り入れ、問題思考力の涵養に寄与している。首都大の特徴として社会から評価される科目となるよう期待する。 ・サイエンスカフェの取組は、既存の枠組みを超えた研究者の交流の機会として高く評価できる。 ・大学院生・研究生に対するチューター配置期間を拡大することで、大学院留学生の学修環境の向上や研究生の大学院入試への学習支援が一段と向上した。 ・海外プロモーション活動の充実や留学生向け授業科目の拡充、留学生宿舍の戸数増加など様々な取組を積極的に行い、受入留学生と学生の海外派遣が増加した。教育の国際化に向けた取組の成果が着実に現れており、留学生の受け入れ体制の充実も図られていることは高く評価できる。	1	・3,4年生を対象とした総合ゼミナールは興味深い取組だが、受講者が少なすぎないか。 ・受入留学生と派遣留学生が増加しており、教育の国際化に向けた取組の成果が着実に現れている。 ・英語により実施する科目、日本語学習に関する科目も大幅に増加させている。
	【1-07】学部・大学院教育の連携等		A			1	・サイエンスカフェの取組は、既存の枠組みを超えた研究者の交流の機会として高く評価できる。 ・日本語等集中コースの参加者が大きく増えるなど、留学生の受け入れ体制の充実が図られている。 ・日本人学生に加え、学外や近隣住民にも、留学生との国際交流機会が提供されていることは評価できる。
	【1-08】研究の推進支援		A			1	・3・4年生を対象とした総合ゼミナールを新規開講し異分野の学生によるディスカッション等を取り入れた授業を展開した。 ・都基金事業の推進や海外プロモーションを積極的に進めてきたことにより、受入留学生数が着実に増加している。 ・実践的な留学英語講座や留学の事前・事後研修を充実させるとともに、学生交換協定校の拡大、経済支援制度の充実等、包括的な派遣留学支援制度を整備し派遣留学生の拡大を図った。
	【1-09】交換留学生受入の促進、正規留学生数の底上げ		S			2	・海外への派遣及び受入ともに増加している。 ・留学生向け授業科目を学生のレベルに応じた内容で開講することにより履修登録者数が大幅増となった。 ・情報リテラシーの向上や図書館の利便性向上に取り組んだ。
	【1-10】海外への派遣学生数の増加		A			2	
	【1-11】大学間・大学院間連携の推進等		A	1	・異分野の学生間のディスカッションなどを多く取り入れた総合ゼミナールを、平成27年度に新規に開講した。28年度からは4クラスに拡大した。注目される科目であり、首都大の特徴として社会から評価される科目となるよう期待する。 ・学部と大学院を一体化する教育の一環として、どちらでも受講できる科目を開講した。 ・異分野の教員・大学院生・学生が参加できるサイエンスカフェを開催し、最新の研究トピックスについて話題を提供し、幅広いディスカッションを行っている。多くの参加を期待する。 ・海外の学生に向けて、多くの大学紹介資料を英文にするなどして、情報発信に努めた。 ・海外で開催された日本留学フェアなどに積極的に取り組んだ結果、前年に比べてブース等への来訪者が増えた。結果として、私費外国人留学生特別選抜入試への出願者が急増した。 ・協定校との交換留学生で派遣された学生が首都大の紹介や、交換留学生として首都大に訪ねた留学生が首都大を紹介する等、留学希望者に積極的に情報提供を行っている。	2	・3・4年生対象の総合ゼミナールを開講し、異分野交流を行っている。 ・HPに留学生の情報入手の入口となる英文のポータルサイトを開設するなど、海外の学生に向けた情報発信を強化した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・「総合ゼミナール」を新規開講し、異分野の学生によるディスカッション等を取り入れた授業を展開した。【1-06】 ・プロモーション活動等を積極的に実施し、受入留学生数の増加につなげた。留学生に対する各種支援を充実させた。【1-09】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・海外への派遣留学生数の増加を加速させるための方策を検討する。【1-10】		(参考意見書) ・日本人学生に加え、学外や近隣住民にも、留学生との国際交流機会が提供されていることは評価できる。 ・情報リテラシーの向上や図書館の利便性向上に取り組んだ。 ・異分野の教員・大学院生・学生が参加できるサイエンスカフェを開催し、最新の研究トピックスについて話題を提供し、幅広いディスカッションを行っている。多くの参加を期待する。 ・海外で開催された日本留学フェアなどに積極的に取り組んだ結果、前年に比べてブース等への来訪者が増えた。結果として、私費外国人留学生特別選抜入試への出願者が急増した。 ・協定校との交換留学生で派遣された学生が首都大の紹介や、交換留学生として首都大に訪ねた留学生が首都大を紹介する等、留学希望者に積極的に情報提供を行っている。				

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】						評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2)教育の実施体制等に関する取組					
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）	委員による評定及び評価コメント	
3 教育の実施体制	【1-12】教育人事制度の適切な運用		A	2	(評価書) ・教学IR(インスティテューショナル・リサーチ)の導入に向けて、学内で具体的な準備が進められている。 ・ラーニングコモンズが大きな成果を挙げ、図書館の入館者が増加していることや利用者の満足度が高まっている。また、図書館員による図書の検索実習を本格化したことも評価できる。 ・教育研究組織における情報セキュリティ向上の取組を進めた。今後は、十分に浸透しているか検証することが必要である。	2	・ラーニング・コモンズ開設以降、図書館の入館者が増加していることや利用者の満足度が高まっている。また、図書館員による図書の検索実習を本格化したことも評価できる。
	【1-13】認証評価受審に向けたデータの収集・管理		A			2	・ラーニングコモンズが大きな成果を挙げていることが確認されたことは評価できる。
	【1-14】学術情報基盤の整備・拡充		A			2	・教育研究組織における情報セキュリティ対策基準及び情報セキュリティ実施手順の改正並びに情報セキュリティ障害対応マニュアルの改訂を行い、周知した。
	【1-15】大学における情報リテラシー教育の支援等		A			2	・教学IRの導入に向けてデータの種類と量の把握等の準備を進めた。 ・電子ジャーナルの契約条件を確認し、一元的検索を可能な体制とした。 ・情報セキュリティ向上の取組を進めた。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・教学IR(インスティテューショナル・リサーチ)の導入に向けて学内で検討を開始し、データベース構築の準備を進めた。 【1-13】 ・首都大学東京の教育研究組織における情報セキュリティ対策基準及び情報セキュリティ実施手順の改正並びに情報セキュリティ障害対応マニュアルの改訂を行い、周知した。【1-14】					2	
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・教学IRを推進するため、教学データにかかるデータベース構築を進める。【1-13】		(参考意見書) ・学部マッチしたコーナーを設けたり、展示したりして、学生が興味を持つ活動を続けている。引き続き利用者のニーズに応えるため、今後はグループ学習に限らず、様々な学習環境を整備し、利用者のニーズに応えていってほしい。			2	・教員人事計画に基づき、厳格なクオリティチェックを行って、教員を採用している。 ・教学IRの導入に向けて、学内で具体的な準備が進められている。 ・図書館にラーニングコモンズを設けた結果、図書館の利用者が急増している。グループ学習に限らず、様々な学習環境を整備し、利用者のニーズに応えていただきたい。 ・図書館の荒川館では、学部マッチしたコーナーを設けたり、展示したりして、学生が興味を持つ活動を続けている。 ・情報セキュリティに関する規定等の改正やマニュアルの改訂を行った。十分に浸透しているか検証することが必要である。
4 教育の質の評価・改善	【1-16】授業改善事例の全学的な共有		A	2	(評価書) ・授業の評価結果を生かして、好事例をまとめた「授業改善ハンドブックvol.1」を発行し、全教員に配布した。素晴らしい試みであり、全学的な教育改善に大いに役立つもので評価できる。 ・FDセミナーで先進的な授業事例を学内外の関係者に報告し、意識啓発を促している。FD活動の全学的な浸透、実質化を期待する。 ・学長のリーダーシップの下、教育改革に関する学長指定課題に取り組んでいる。新たな教育改革の提案が期待される。	2	・授業事例をまとめた「授業改善ハンドブック」を発行し、全教員に配布するなどの取組は評価できるが、FDセミナーの教員の参加者がやや少なく、FD活動が全学的にどれだけ浸透し、実質化しているか、十分にはわからない。
	【1-17】全学的な教育改革の推進等		A			2	・授業の評価結果を生かして、好事例をまとめて発行し、教員に配布したことは高く評価できる。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・授業改善アンケートで報告があった授業事例や、各部局から推薦された授業事例をまとめた「授業改善ハンドブック vol.1」を発行し、全教員に配布した。【1-16】		2			・授業改善アンケートで集約された事例の中から、参考に資する授業事例や、各部局から推薦された授業事例をまとめた「授業改善ハンドブック vol.1」を発行し、全教員に配布した。	
			2			・「授業改善ハンドブックvol.1」を発行し、全教員に配布した。	
			2				
			(参考意見書)			1	・授業改善アンケートで集約された事例から、参考に資する授業事例や部局推薦の事例をまとめて、ハンドブックにして全教員に配布している。素晴らしい試みで、全学的な教育改善に大いに役立つもので高く評価する。 ・FDセミナーで先進的な授業事例を学内外の関係者に報告し、意識啓発を促している。 ・学長のリーダーシップの下、教育改革に関する学長指定課題に取り組んでいる。新たな教育改革の提案が期待される。
2						・授業改善アンケートで報告があった授業事例や、各部局から推薦された授業事例をまとめた「授業改善ハンドブック vol.1」を発行し、全教員に配布し、教員の意識喚起に努めた。	

評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
----	--



評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

5 成績評価	【平成25年度に中期計画を達成済み】		##	(評価書)		
					(参考意見書)	
Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3)学生支援に関する取組						
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
6 全学を挙げた取組の実践	【1-18】学生の就職支援等	A	2	(評価書) ・各学部の教員や事務室の協力の下、99.5%の学生の進路状況を把握している。継続して高い比率である。 ・他大学での取組等を参考に支援方法の検討を行い、ノートパソコンや視覚障害者向け読み上げソフトなど必要な機器を購入し、適切な対応を行っている。	2	・進路把握に力を入れており、27年度の進路把握率は99.5%と高い水準を維持している。 ・障がいのある学生の支援にも取り組んでおり、28年度の障害者差別解消法の施行に向けた準備を適切に実施している。 ・国際副専攻コースは興味深い試みだが、学生数の状況など具体的な成果を知りたい。
	【1-19】国際副専攻コースの着実な運営	A		2	・多様な学生のキャリア支援のために、異なる部署間での情報交換が行われている点は評価できる。 ・障がいのある学生の支援体制について、他大学の状況の把握など、積極的な取組が見られる。	
	【1-20】学生ポータルシステムの利用促進	A		2	・教員や学部・学系の協力のもと、学生の進路状況を高い率(99.5%)で把握している。 ・障がい学生の支援に当たり、他大学での取組等を参考に支援方法の検討を行い、必要な機器を購入するなど、適切な支援を行った。	
				2	・進路把握に努めており、99%以上の把握率となっている。 ・障がいのある学生本人が講演者となる勉強会により、当事者の視点から障がい学生支援を考える機会を持った。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・教職員や支援スタッフ等のスキル向上のため、障がいのある学生本人が講演者となる勉強会を開催した。【1-18】		(参考意見書) ・国際副専攻コースは興味深い試みだが、学生数の状況など具体的な成果が示されることを期待する。	2		
				2	・教員や学部・学系等の全学的な協力の下、99.5%の学生の進路状況を把握している。継続して高い比率である。	
				2	・教職員や支援スタッフ等のスキル向上のため、障がいのある学生のための講演会などを開催している。	
7 キャリア形成支援	【1-21】進路情報システムの安定運用及び情報の充実等	A	2	(評価書) ・進路情報のWeb登録機能の追加により、進路把握率の向上に寄与するとともに、業務の効率化が可能となった。 ・低学年向けのキャリア教育、インターンシップの促進など、低学年からキャリア形成の意識を高めるための取組を行っていることは評価できる。 ・キャリアサポートOB・OGネットワークを活用した就職活動支援(講演会、交流会、OB・OG訪問)などを活発に行って、数年に渡って、全国平均を上回る高い就職率となっている。	2	・卒後3年目の卒業生に対する就業状況調査は興味深い取組だが、結果をどう生かしているのか知りたい。 ・キャリア形成支援のための取組が、講演会・セミナーなどの行事中心になっているが、カリキュラムの中に組み込まれたものはないのか。
	【1-22】低学年向けのキャリア形成支援行事の充実等	A		2	・低学年からキャリア形成の意識を高めるための取組を行っていることは評価できる。 ・キャリアサポートにおいて、職員の資格取得に加えて、OB・OGを積極的に活用していることも評価できる。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・進路情報システムに、Webにより進路情報を登録する機能を追加した。【1-21】			2	・進路情報のWeb登録機能の追加により、進路把握率の向上の寄与につながるとともに、業務の効率化が可能となった。	
				2	・卒業生に対する就業調査(アンケート)により状況把握を行うとともに、OB・OG交流会を実施して就職支援を充実させる努力をした。アンケートの回収率(25%)がやや低く、向上させる余地があると思われる。 ・キャリアサポートOB・OGネットワークを活用した就職活動支援(講演会、交流会、OB・OG訪問)などを活発に行って、数年に渡って、全国平均を上回る高い就職率となっている。 ・低学年向けのキャリア教育、インターンシップの促進など、早い段階でのキャリア教育を積極的に行っている。	
				2		
				2	・キャリア支援専門員を継続して配置し、学生相談に対応していることから、相談件数は増えている。 ・就職率は全国平均並みである。 ・キャリアサポートOB・OGネットワークを活用して、在学生への後援会、交流会などを行っている。	
			(参考意見書) ・卒後3年目の卒業生に対する就業状況調査は興味深い取組だが、結果をどう生かしているのか。またアンケートの回収率(25%)がやや低く、向上させる余地があると思われる。		2	・進路情報システムに、Webにより進路情報を登録する機能を追加した。

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

8 健康支援	【1-23】非常勤医師による相談体制の実施等	A	2	(評価書) ・学生相談の体制の充実、学生相談室と学内外の医療関係者との連携体制整備など、学生の健康を支える体制整備を継続的にを行い、情報を共有することで、より迅速にかつ効果的な対応ができるようになった。 ・学生支援補助員(ピアサポーター)の育成と活用に取り組んだ。学生がより親しみやすい雰囲気の醸成に一役買っている。	2	・南大沢、日野で学生相談件数が27年度大幅に増加しているが、どのように評価しているのか。 ・南大沢以外のキャンパスにおいて、電話やスカイプ等を使って随時相談できる環境を整えているのか。学生相談はタイミングも大切。
	【1-24】メンタルヘルス対策への理解促進等	A			2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・晴海キャンパスに看護師を配置し、マルチキャンパスにおける学生の健康支援体制を強化した。【1-23】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、各キャンパスにおける健康相談体制の強化を図ると共に、学生の抱える様々な悩みや、対人関係・心理適応上の問題等に関する相談体制を充実する。【1-23】				2	・教職員に対し研修を実施し、メンタルヘルスにおいて困難な課題を抱える学生への対応について、本学教職員の理解を促進した。
					2	・学生相談の体制の充実、学生相談室と学内外の医療関係者との連携体制整備など、学生の健康を支える体制整備を継続的に行っている。 ・学生支援補助員(ピアサポーター)の育成と活用に取り組んだ。学生がより親しみやすい雰囲気の醸成に一役買っている。
					2	
					2	・メンタルヘルス対策への教職員の理解促進のため、学生支援対応研修や出張コンサルテーションを実施している。 ・学生支援リーフレット等を作成し、学生・大学院生用の他に、教職員用も印刷し、配布した。配布方法を工夫したので、学生の相談室利用者が急増した。 ・学生相談室と医務室が連携し、学生の健康に関する情報を共有することで、より迅速にかつ効果的な対応ができるようになった。
		2	・晴海キャンパスに看護師を配置し、学生の健康支援体制を強化している。			
9 経済的支援	【平成23年度に中期計画を達成済み】		##	(評価書)		
10 留学・留学生支援	【1-25】国際化行動計画の策定等	A	2	(評価書) ・国際化基本方針に基づき、国際化行動計画を策定し、教育、研究、キャンパスの国際化に向けて、受入留学生の在籍数900名程度に拡大するなど、具体的な課題に取り組んでいる。 ・職員の国際化のための研修に幅広い部署からの参加を得ている。	2	・国際化行動計画でどのようなことが示されており、それによってどのような効果があるのか、明らかにしてほしい。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・国際化行動計画に基づき、教育の国際化、研究の国際化、キャンパスの国際化に取り組んだ。【1-25】				2	
					2	・国際化基本方針に基づき、国際化行動計画を策定し、教育の国際化、研究の国際化、キャンパスの国際化に取り組んだ。
					2	・キャンパスの国際化に積極的に取り組んでいる。 ・職員の国際化のための研修に幅広い部署からの参加を得ている。
					2	・国際化基本方針に基づき、教育、研究、キャンパス等の国際化に向けて、具体的な課題に取り組んでいる。
		2	・国際化基本方針に基づき、国際化推進本部での審議・検討、12月の教育研究審議会での決定を経て、国際化行動計画を策定した。 ・行動計画に基づき、教育の国際化、研究の国際化、キャンパスの国際化に取り組んだ。			

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

11 障がいのある学 生への支援	【1-26】障がいのある学生の支援体制	A	2	(評価書) ・障がい者に対して教職員が適切に対応するた め、障害者差別解消法に基づいて、教職員対応要 領を策定した。これにより、障がいのある学生への 適切な対応が期待される。 ・他大学での取組等を参考に支援方法の検討を行 い、ノートパソコンや視覚障害者向け読み上げソフ トなど必要な機器を購入し、適切な対応を行っている。	2	・障害者差別解消法の施行にあわせて、教職員対応要領を策定するなど、適切な対応を行っている。 ・障がいのある学生本人が講演者となる勉強会など、良い取組と思われるが、参加者が少ないのが残念である。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績 を上げた取組、その他積極的な取組】 ・障害者差別解消法に基づき、本学の教職員が適切に対応す るための「首都大学東京における障がいを理由とする差別の解 消に関する教職員対応要領」を策定した。【1-26】			2	・障害者差別解消法に対応した積極的な取組が見られた。	
				2	・障がい学生の支援に当たり、他大学での取組等を参考に支援方法の検討を行い、必要な機器を購入するなど、適切な支援を行った。 ・障害者差別解消法に基づき、「首都大学東京における障がいを理由とする差別の解消に関する教職員対応要領」を策定した。	
				2	・他大学の先進的取組を参考に、適切な支援につなげている。	
				2		
12 学内外における 学生活動への 支援	【1-27】ボランティア活動の推進等	A	2	(評価書) ・学生の課外活動等に対する表彰制度について、 より幅広い自主的な活動を表彰し支援できるよう見 直しを進めた。 ・ボランティア活動推進の観点から、センターを設 置したことは評価できる。拠点があることで活動が 可視化され、活動の活発化につながることを期待 する。	2	・首都大学東京ボランティアセンターの設置は興味深い取組であり、今後の活動に期待したい。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績 を上げた取組、その他積極的な取組】 ・ボランティア活動を通じ、リーダーシップを発揮する人材を育 成することを目的に、平成28年1月1日に首都大学東京ボラン ティアセンターを設置した。【1-27】			2	・ボランティア活動推進の観点から、センターを設置したことは高く評価できる。	
				2	・ボランティア活動を通じ、豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的に、首都大学東京ボランティアセン ターを設置した。	
				2	・ボランティアセンターを設置して、学生のボランティア活動の支援を推進する拠点とした。拠点があることは活動の可視化につながり、活動の活 発化につながることを期待される。	
				2		
	(参考意見書) ・ボランティア活動を推進するためボランティアセンターを 開設して、学生ボランティアを支援する仕組みを作った。 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた意識改革 が期待される。		2			
			2	・学生の様々な課外活動に対して、幅広く表彰する制度に改めた。 ・ボランティア活動を推進するためボランティアセンターを開設して、学生ボランティアを支援する仕組みを作った。東京オリンピック・パラリンピック に向けた意識改革が期待される。		
			2	・平成28年度に新たな表彰制度による学生活動への支援等を行えるよう、首都大学東京同窓会が主催するファイティングスピリット賞と首都大学東 京主催のスポーツ文化活動賞を統合する方向で調整を進めた。 ・首都大学東京ボランティアセンターを設置した。		



評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究の内容等に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
13 研究の内容等に関する取組	【1-28】研究活動に関する情報の学内外への発信	A	2	(評価書) ・学内の先駆的研究成果を国内外に広く発信するために、積極的に取り組んでいる。 ・傾斜的研究費学長裁量枠に若手研究者海外派遣支援枠を新たに設け、5名の若手研究者を支援していることは評価できる。若手研究者に対する研究支援として意義ある取組である。引き続き、若手研究者の育成・支援に努めていただきたい。	1 ・新たに部局附属研究センターを4つ設置するとともに、それらを含む研究成果を国内外に広く発信するために、種々の取組を行っている。 ・傾斜的研究費学長裁量枠に若手研究者海外派遣支援枠を新たに設け、5名の若手研究者を支援していることを評価したい。引き続き、若手研究者の育成・支援に努めていただきたい。
	【1-29】更なる研究支援の検討・実施	A		2 ・研究成果の還元の観点から講座が企画され、多くの都民の参加があったことは評価できる。	
	【1-30】学術研究成果の還元のための講座の開催	A		2 ・次代を担う若手研究者の国際的な研究活動を促進し、研究大学としての国際的な存在感を高めることを目的として、傾斜的研究費(全学分)学長裁量枠に若手研究者海外派遣支援枠を新たに設置した。	
	【1-31】新大都市リーディングプロジェクト基金の活用目的に合致したプロジェクトの組成の推進	A		2 ・学長裁量経費による若手研究者派遣枠を新たに設置した。若手研究者に対する研究支援として意義ある取組である。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・傾斜的研究費(全学分)学長裁量枠に若手研究者海外派遣支援枠を新たに設置した。【1-29】 ・オープンユニバーシティにおいて、学術研究成果を広く都民に還元する講座「PRIシリーズ」を実施した。【1-30】		(参考意見書)		2  2 ・学内の先駆的研究の広報に積極的に取り組んでいる。 ・学長裁量経費枠を活用して、優れた若手研究者を海外派遣するシステムを構築し、5名の派遣を決めた。 2 ・研究プロジェクトに対して集中的に資源投資した。その効果を検証するために中間報告会などを開いて、進捗状況を確認した。 ・学術研究成果を還元するために、公開講座を開催したところ、好評で、多くの方が参加した。 ・優れた研究と評価した研究グループに対し、新たに研究支援を行った。
		2 ・若手研究者海外派遣支援枠を新たに設置した。			
中期計画に係る該当項目	Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等の整備に関する取組				
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
14 研究実施体制等の整備に関する取組	【1-32】教育研究体制の更なる充実	A	2	(評価書) ・ダイバーシティの推進に向け、講演会、講習会、研修会を開催するなど積極的な取組が見られる。 ・一時保育施設を利用する教職員、学生にとっての利用環境向上に取り組んだ結果、利用者が着実に増加し、満足度も高くなったことは評価できる。今後は、利用する子供にとってもふさわしい環境であるかの検証など、総合的な観点から検討していくことを期待する。 ・優秀な女性大学院生に対して研究奨励賞を授与する制度を設け、5名を表彰し女性若手研究者の支援に寄与した。 ・研究支援の強化を図った結果、JST(科学技術振興機構)やNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)等の大型提案公募に新規採択されるなど、外部資金を大きく増加させていることは評価できる。	2 ・ダイバーシティ推進の取組が種々行われているが、例えば、女性研究者支援のために、研究支援員制度や一時保育施設開設以外にどのような施策が講じられているのか、女性教員比率の目標を定めているのかなど、踏み込んだ報告がほしい。27年度の女性教員比率18.4%をどう評価しているのか。 ・JSTやNEDO等の大型提案公募に新規採択されるなど、外部資金を大きく増加させていることは高く評価したい。
	【1-33】ダイバーシティ推進の取組等	A		2 ・ダイバーシティの推進に向け、講習会等積極的な取組が見られる。 ・一時保育については、子どもにふさわしい環境であるか、英語があるというだけでなく総合的な観点から検討してほしい。ベビーシッターの派遣制度、学生によるボランティア、常設の保育施設への変更など、幅広い視野で在り方を検討してほしい。	
	【1-34】教員支援の一層の強化	A		2 ・科研費及び科学技術振興機構や新エネルギー・産業技術総合開発機構などの外部資金研究費等に応募する教員の申請書作成について、URAによる支援を実施し、外部資金獲得の金額が平成26年度に比べ増加した。 ・科研費採択率の向上を目的として、継続的な採択経験を持つ本学教員による研究計画調書作成に関する講習会を開催し、科研費の新規申請件数は平成26年度に比べ増加した。	
	【1-35】国際的な研究拠点形成のための教員支援の推進	A		2 ・一時保育施設の利用環境向上に取り組んだ。 ・「首都大学女性大学院生研究奨励賞」を創設し、5名を表彰した。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・平成26年度末に開設した一時保育施設について、学内周知を行うとともに、利用者ニーズに応える取組を実施した。【1-33】 ・科研費採択率の向上を目的として、継続的な採択経験を持つ本学教員による研究計画調書作成に関する講習会を開催した。【1-34】 ・傾斜的研究費若手研究者海外派遣支援枠により、教員5名に対する支援を決定した。【1-35】		(参考意見書) ・一時保育以外にもベビーシッターの派遣制度、学生によるボランティア、常設の保育施設への変更など、幅広い視野で在り方を検討してほしい。 ・ダイバーシティ推進の取組が種々行われているが、例えば、女性研究者支援のために、研究支援員制度や一時保育施設開設以外にどのような施策が講じられているのか、女性教員比率の目標を定めているのかなど、踏み込んだ報告がほしい。27年度の女性教員比率18.4%をどう評価しているのか。		2  2 ・ダイバーシティ推進に取り組み、講演会、講習会、研修会などを開催し、理解を深めるよう努めた。 ・ワークライフバランスの実現のため研究支援制度を昨年度に引き続き実施した。 ・研究支援の強化を図った結果、科研費は申請件数が増加し、その他の外部資金も増えた。 ・一時保育施設の設置により、利用者が着実に増加し、満足度も高い。 ・女性若手研究者の支援を目的に、優秀な大学院生に対して研究奨励賞を授与する制度を設けた。 ・国際共同研究の推進を目指し、若手研究者5名を海外に派遣し、支援した。
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・大型の外部資金を獲得できる教員の輩出を目指し、教員支援の一層の強化を図る。【1-35】				2 ・科研費採択率の向上を目的として、研究計画調書作成に関する講習会を開催した。 ・傾斜的研究費若手研究者海外派遣支援枠により、教員5名に対する支援を決定した。



平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】							評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会貢献に関する目標を達成するための措置 (1)都政との連携に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)		委員による評定及び評価コメント	
15 都政との連携に関する取組	【1-36】都や区市町村、監理団体などとの連携		A	2	(評価書) ・社会連携担当URAを配置し、市区町村からの相談に対応するなど、東京都及び各部局、各地区との連携による取組を推進し、拡大を図っている。 ・パラリンピック大会開催を機に、障がい者スポーツに対する理解を深めるため、講義科目の新設や体験プログラムの実施に協力している。	2	・様々な取組を行っているが、都政との連携全体の状況について、大学としてどう評価し、どのような課題認識をしているのか、知りたい。	
	【1-37】障がい者スポーツボランティア養成支援に関する教育プログラムの実施等		A			2	・社会連携担当URAを配置し、区市町村からの相談に対応し、行政連携事業の実施につながったことは評価できる。	
	【1-38】公共経営の人材育成プログラムの促進		A			2	・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東京都の取組を支援するため、東京都との連携に係る広報機能を強化することを目的に、オリンピック・パラリンピックに関連した首都大の取組状況を発信するためのポータルサイトの公開に向けた準備を進めた。 ・初級障がい者スポーツ指導員資格の取得につながる正課科目の開講や荒川区と共催で車椅子バスケットボール体験講座の実施等、障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大に貢献した。	
	【1-39】連携協定締結先との共同研究の推進等		A			2	・ 東京都及び各部局、各地区との連携による取組を推進し、拡大を図っている。	
						2		
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東京都の取組を支援するため、東京都との連携に係る広報機能を強化することを目的に、オリンピック・パラリンピックに関連した首都大の取組状況を発信するためのポータルサイトの公開に向けた準備を進めた。【1-36】 ・初級障がい者スポーツ指導員資格の取得につながる正課科目の開講や荒川区と共催で車椅子バスケットボール体験講座の実施等、障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大に貢献した。【1-37】		(参考意見書) ・様々な取組を行っているが、都政との連携全体の状況について、大学としてどう評価し、どのような課題認識をしているのか。 ・都の各局との連携で様々な事業に参加したり、協力しながら、都連携事業の獲得に努めている。		2	・東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、東京都と連携すると共に、取組内容を広報する準備を始めた。 ・都の各局との連携で様々な事業に参加したり、協力しながら、都連携事業の獲得に努めている。 ・パラリンピック大会開催を機に、障がい者スポーツに対する理解を深めるため、講義科目の新設や体験プログラムの実施に協力している。 ・都立産業技術センター等との協定機関との共同研究を進めるため、研究者間の交流を進めている。 ・健康福祉学部では都立看護専門学校との連携を強化し、国家試験講座の実施等を行っている。		
				2	・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東京都の取組を支援するための各種の活動を行っている。 ・初級障がい者スポーツ指導員資格の取得につながる正課科目の開講や荒川区と共催で車椅子バスケットボール体験講座の実施等、障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大に貢献した。			
中期計画に係る該当項目		Ⅱ 首都大学東京に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会貢献に関する目標を達成するための措置 (2)社会貢献等に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)		委員による評定及び評価コメント	
16 産学公の連携推進	【1-40】企業や地域団体等の課題解決の支援		A	2	(評価書) ・大学発等ベンチャーの新規設立及び既存のベンチャーへの経営支援により、首都大の学術研究成果が社会に還元されている。	2	・大学発ベンチャー3件が報告されているが、全体的な状況とそれに対する認識を知りたい。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・大学等発ベンチャーの新規設立及び既存の大学等発ベンチャーに対する経営支援により、学術研究の成果を社会に還元した。【1-40】		2					
			2			・大学等発ベンチャーの新規設立及び既存の大学等発ベンチャーに対する経営支援により、学術研究の成果を社会に還元した。		
			2			・大学発等ベンチャーの新規設立及び既存のベンチャーへの経営支援による社会還元を果たした。		
			2					
			(参考意見書) ・大学発ベンチャー3件が報告されているが、全体的な状況とそれに対する認識が示されることを期待する。		2	・大学等発ベンチャー事業3件への設立支援を行うと共に、既存のベンチャーにも経営支援を行うことで首都大の学術研究成果が社会に還元されている。		
				2	・大学等発ベンチャーの新規設立及び既存の大学等発ベンチャーに対する経営支援により、学術研究の成果を社会に還元した。			

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

17 地域貢献等	【1-41】教員の地域連携活動の支援	A	2	(評価書) ・地域金融機関との連携により、大学教員が講師の人材育成講座を開催し、後継者養成に貢献している。 ・学長裁量経費枠研究を中心に、特別講座を企画・開講し、学術最先端の研究成果を都民に直接紹介した。都民の理解を得るために重要な企画である。	2	・地域貢献についての考え方と現状に対する認識を知りたい。
	【1-42】魅力ある講座の企画等	A			2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・多摩信用金庫との連携により、本学教員等を講師として、東京都の都市型農業に従事する後継者育成に特化した人材育成プログラム(「TAMA NEXTファーマーズプログラム」)を開催した。【1-41】 ・オープン・ユニバーシティにおいて、震災復興や大人のための金融講座等、都民のニーズの高いテーマについて特別講座を企画した。【1-42】				2	・多摩信用金庫との連携により、本学教員等を講師として迎え東京都の都市型農業に従事する後継者育成に特化した人材育成プログラム(「TAMA NEXTファーマーズプログラム」)を開催した。 ・震災復興や大人のための金融講座等、都民のニーズの高いテーマについて特別講座を企画した。 ・都や区市町村との連携講座やオープン・ユニバーシティにおいて、都民のニーズに合った講座を提供した。 ・学長裁量経費枠研究を中心に、特別講座を企画・開講し、学術最先端の研究成果を都民に直接紹介した。都民の理解を得るために重要な企画である。
					2	
					2	・地域金融機関との連携により、大学教員が講師の人材育成講座を開催し、後継者養成に貢献している。 ・公開講座では都民が興味を持つ内容を企画し、提供している。 ・学術研究成果の還元のための講座や都民のニーズの高い特別講座を企画開催し、多くの参加者があった。
			2	・多摩信用金庫との連携により、本学教員等を講師として、東京都の都市型農業に従事する後継者育成に特化した人材育成プログラム(「TAMA NEXTファーマーズプログラム」)を開催した。		
中期計画に係る該当項目	Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1)教育の内容等に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員による評定及び評価コメント	
18 入学者選抜	【2-01】戦略的な広報活動による素養のある学生の確保	B	2	(評価書) ・様々な機会を活用して、大学の知名度向上や志願者獲得に努力している。また、SNSを利用しての大学紹介を積極的に行っている。さらに、産学連携により認知度向上に努めた。 ・企業訪問を行って、企業推薦入試制度を紹介し、社会人入学者の推薦を依頼している。 ・知名度向上に向けて様々な取組を行っているが、残念ながら志願者の減少に歯止めがかかっていない。原因が知名度だけなのか、他の問題なのか、改めて検証する必要がある。どのような学生が入学し、どのような学生生活を送り、そこで何を学び、その結果、社会にどう活かされているのか、といった教育成果を検証し、それを社会に発信していくなど、多面的な検討をしていただきたい。	2	・知名度向上に向けて様々な取組を行っているが、残念ながら志願者の減少に歯止めがかかっていない。原因が知名度だけなのか、他に根本的な問題があるのか、多面的な検討が必要である。 ・教育方法など素晴らしい取組を意欲的に展開しているにもかかわらず、志願者減少に歯止めがかからないのは、どのような学生が入学し、どのような学生生活を送り、そこで何を学び、社会にどう活かされているのかが、外からわかりづらいからではないか。大学が提供するサービスばかり目立ち、サービスを受ける学生が見えてこないところに産技大の根本的な問題があるのではないか。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・産技大の知名度向上を目的とした広報活動として、創立10周年記念事業や大学院説明会及びSNS等の充実など、効果的な広報活動を実施した。【2-01】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、多様な広報活動を積極的に展開するとともに、これらの活動を更に効果的なものとし、専門職大学院にふさわしい学生の確保に努める。【2-01】				2	・学生確保に向けて積極的に取り組んでいることは評価できるが、入学者数の確保に必ずしもつながっていない。
					3	・産技大の知名度向上を目的とした広報活動として、創立10周年記念事業や大学院説明会及びSNS等の充実など、効果的な広報活動を実施したが入学者数は減少した。
					2	・学生確保の努力を継続しており、27年10月入試において前年度より改善したものの、応募者増の傾向にあるとは言い難い。少子化傾向にあるため困難は理解できるが、継続的努力が望まれる。
					3	
			(参考意見書) ・志願者減少に歯止めがかからないのは、大学が提供するサービスばかり目立ち、サービスを受ける学生が見えてこないところに問題があるのではないか。 ・社会人が多い本学は、志願者が社会経済情勢に大きく左右されることを考えると、定員割れは直ちに批判されるものではない。しかし、税金で運営されることを考えると、事実を真摯に受け止め、入学者選抜の改善に向けて動き出していただきたい。	3	・様々な機会を活用して、大学の知名度向上や志願者獲得に努力している。また、SNSを利用しての大学紹介を積極的に行っている。さらに産学連携により知名度向上に努めた。 ・企業訪問を行って、企業推薦入試制度を紹介し、社会人入学者の推薦を依頼している。 ・にもかかわらず、志願者は伸びず、4月入学者は定員割れを起こした。社会人が多い本学は、志願者が社会経済情勢に大きく左右されることを考えると、定員割れは直ちに批判されるものではない。しかし、税金で運営されることを考えると、事実を真摯に受け止め、入学者選抜の改善に向けて動き出していただきたい。	
				2	・産技大の知名度向上を目的とした広報活動として、創立10周年記念事業や大学院説明会及びSNS等の充実などを行った。	



平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

19 教育課程・教育 方法	【2-02】起業・創業等を担う人材育成のための新たな教育プログラムの設置・運営	S	1	(評価書) ・学生及び産業界のニーズに即した両専攻横断型の事業アーキテクトコースを新たにスタートさせ、8科目を開講した。より広い学びを志向する内容で、起業や創業などを担う人材の育成に寄与する取組である。 ・講義・演習型科目に加え、他大学の特色ある教育手法を取り入れた事例研究型科目を開講するなど、教育改善を行ったことは高く評価できる。 ・産業界の最新の動向を踏まえたテーマを選定するなど、PBL教育の高度化に意欲的に取り組んでいる。 ・ディプロマ・サプリメントは学修成果を評価するのに有効なもので、国外のみならず、アジア諸国への浸透も図っているほか、APEN事業の拡充などに意欲的に取り組んでいることは高く評価できる。	1	・両専攻横断型のコースとして「事業アーキテクト」コースをスタートさせたほか、ディプロマ・サプリメントの普及、産業界と連携したPBL教育の高度化、APEN事業の拡充などに意欲的に取り組んでいる。
	【2-03】ディプロマ・サプリメントの普及に向けた取組等	A		2	・学生や企業のニーズに沿ってカリキュラムが見直されていることは評価できる。	
	【2-04】産業界と連携したPBL教育の見直し等	A		1	・「次世代成長産業分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム」において開発した両専攻横断型の新たなコースとして、事業アーキテクトコースを設置・開講し起業、創業等を担う人材育成に積極的に取り組んだことは高く評価できる。	
	【2-05】APEN事業の充実・拡大等	A		1	・学生及び産業界のニーズに即した新しい教育プログラムの開発・提供と運営を行なっている。	
	【2-06】PBL教育を中心とした新たな留学制度の検討等	A		2		
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・事業アーキテクトコースのスタートと共に、カリキュラムの見直しを行った。【2-02】 ・PBL検討部会における検討を踏まえ、外部レビュー等を活用して更なる改善を図った。【2-04】 ・ASEANの人材ニーズに応えるため、JAIF事業を積極的に活用した。【2-05】			(参考意見書)	1	・専攻横断型の新たなコースをスタートさせた。より広い学びを志向する内容で、大いに期待する。 ・産業界のニーズに即した高度専門職業人育成として、「航空整備士育成プログラムの開発」に取り組んでいる。 ・ディプロマ・サプリメントは学修成果を評価するのに有効なもので、国外のみならず、アジア諸国への浸透も図っている。 ・産業界と連携してPBL教育の見直しを開始した。PBL教育の有効性についても改善・検証に取り組んでいる。評価を期待する。
			2	・事業アーキテクトコースのスタートとともに、カリキュラムの見直しを行った。 ・PBL検討部会における検討を踏まえ、外部レビュー等を活用した。 ・ASEANの人材ニーズに応えるため、JAIF事業を積極的に活用した。		
中期計画に係る該当項目		Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2)教育の実施体制等に関する取組				
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
20 教育の実施体制	【2-07】教員を企業等に派遣する研修制度の検討等	A	2	(評価書) ・教員を企業等に派遣する研修制度について検討を始めたが、趣旨と目的が明確になるよう期待する。 ・APEN加盟大学との連携、文部科学省補助事業における他大学との連携、産業技術研究センターとの連携など、広く学外機関との連携を構築し、教育の高度化に取り組んだ。	2	・APEN加盟大学との連携、文科省補助事業における他大学との連携、産業技術研究センターとの連携など、広く学外機関との連携を構築し、教育の高度化に活かそうとしている。
	【2-08】APEN加盟大学等との更なる連携強化等	A		2		
	【2-09】産業技術研究センター等との交流促進	A		2	・APENを活用し、JAIF(日・ASEAN統合基金)事業を行い、APEN参加大学や産技高専等の国内教育機関、企業等との連携が強化された。 ・enPITにおいてPBL教育を中心とした教育プログラムを連携企業と開発し、他大学との相互交流と連携に取り組んだ。	
	【2-10】複線型教育システムの拡充・推進	A		2	・企業や他大学との連携のもとに、インターンシップをはじめとする教育研究を展開した。 ・産業技術研究センターや産技高専等の関係機関との交流を促進し、PBL教育の連携や教育プログラム開発の連携などを推進した。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・アジア地域の大学等の国際ネットワークであるAPEN(アジア高度専門職人材育成ネットワーク)を活用し、JAIF(日・ASEAN統合基金)事業を行った。【2-08】 ・他大学や企業等と連携し、文科省事業である社会人学び直し事業を引き続き実施し、教育研究の連携を強化するとともに、ケース手法を取り入れた事例研究型科目2科目を新たに開講した【2-08】			(参考意見書)	2	
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、主に実務家教員を企業等に派遣する研修制度について検討し、教員の教育研究能力向上を図る。【2-07】				2	・教員を企業等に派遣する研修制度について検討を始めたが、趣旨と目的が明確になるよう期待する。
				2	・アジア地域の大学等の国際ネットワークであるAPEN(アジア高度専門職人材育成ネットワーク)を活用し、JAIF(日・ASEAN統合基金)事業を行った。 ・他大学や企業等と連携し、文科省事業である社会人学び直し事業を引き続き実施し、ケース手法を取り入れた事例研究型科目2科目を新たに開講した。	



**平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】**

評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
----	--

21 教育の質の評 価・改善	【2-11】情報アーキテクチャ専攻における分野別認証評価 の受審等	S	1	(評価書) ・情報アーキテクチャ専攻の分野別認証評価にお いて、認証評価結果が大きく改善されたことは高く 評価できる。社会の要請を考慮し、また国際的動向 を把握した上で、教員のFD活動、PBL教育、評価 の工夫などに取り組んだ結果、W(弱点)評価がな くなり、認証評価機関への改善報告が免除されたこ とは高く評価できる。 ・ブレンディッド・ラーニングについて、教員による課 題抽出が進められているが、改善に向けての取組 も期待する。	2	・情報アーキテクチャ専攻の分野別認証評価において、前回受審からの大幅改善が評価されたことを高く評価したい。 ・より正確なコンピテンシー評価を行うための評価計算の自動化は、興味深い。内容を知りたい。
	【2-12】授業評価システムを活用したFD活動の推進	A			1	・認証評価結果が大きく改善されたことは高く評価できる。
	【2-13】専門職大学院大学独自のSD活動の実施	A			1	・情報アーキテクチャ専攻における分野別認証評価を受審し、認証評価機関が定める8つの評価基準及び計46の評価項目に関して高い評価を 得た。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績 を上げた取組、その他積極的な取組】 ・情報アーキテクチャ専攻における分野別認証評価において、 本学の教育改善の取組が高く評価された。【2-11】				1	・社会の要請を考慮し、また国際的動向を把握した上で、教員のFD活動、PBL教育、評価の工夫などにより教育改革を推進した。認証評価にお ける多くの評価基準において、平成27年度は、平成22年に比べて大幅に向上した評価を得ている。
					2	
			(参考意見書)	1	・情報アーキテクチャ専攻が認証評価を受け、平成22年度に受けた評価に比べ、飛躍的に高い評価を受けた。教育の質の向上が明確であったと 評価する。 ・インターネットを活用したビデオ学習と対面授業を組み合わせた反転学修を可能にするブレンディッド・ラーニングを実施している。社会人学生の 多い本学では有効な方法であり、成果を期待する。教員による課題抽出が進められているが、改善に向けての取組も期待したい。	
				2	・情報アーキテクチャ専攻における分野別認証評価において、教育改善の取組が高く評価された。	
中期計画に 係る該当項目	Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3)学生支援に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
22 学生支援に関 する取組	【2-14】履修証明プログラムの検証・充実	A	2	(評価書) ・ブレンディッド・ラーニングの実施が学生の利便性 と合わせ、教育の質向上につながったことは評価 できる。 ・就職・キャリアアップ等の支援は担任制の活用に より実施されている。小規模大学の特徴と成果が認 められる。 ・履修証明プログラムの受講者が増加していること を評価したい。大学の認知度向上や志願者確保にも 結びつく可能性があり、社会貢献や地域貢献とし ても意義がある。	2	・履修証明プログラムの受講者が増加していることを評価したい。大学の認知度向上や志願者確保にも結びつく可能性があり、社会貢献や地域貢 献としても意義がある。 ・ブレンディッド・ラーニングや遠隔授業も着実に定着しつつある。
	【2-15】ブレンディッド・ラーニング及び遠隔授業の実施	A			2	・ブレンディッド・ラーニングの実施が学生の利便性と合わせ、教育の質向上につながったことは高く評価できる。
	【2-16】就職・キャリアアップ等に関する支援の実施	A			2	・インターネットを活用したビデオ学修と対面授業を組み合わせ反転学修を可能とするブレンディッド・ラーニングを両専攻で実施し教育の質の向 上に寄与した。 ・各専攻において担任による個別相談・個別指導を行い、就職・キャリアアップに対する支援を実施した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績 を上げた取組、その他積極的な取組】 ・ブレンディッド・ラーニング及び遠隔授業を引き続き実施する ことで、学生の通学負担を軽減し、学生支援を図った。【2-15】 ・担任制やキャリア開発支援委員会を通じた支援により、学生 に対する充実したキャリア支援を行った。【2-16】				2	・担任による個別相談・個別指導を実施した。教員の負担は大きい が、効果的取組と考えられる。 ・メンター制度の運用に着手した。卒業生の協力を組織するには手 間がかかると思われる。今後に期待する。
			2			
2			・就職・キャリアアップ等の支援は担任制の活用により実施されている。小規模大学の特徴と成果が認められる。 ・メンター制度の導入を検討している。			
				2	・ブレンディッド・ラーニング及び遠隔授業を引き続き実施した。 ・担任制やキャリア開発支援委員会を通じた支援を行った。	

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

中期計画に係る該当項目		Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 研究に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント		
23 研究の内容等	【2-17】PBL教育に関する研究の推進等	A	2	(評価書) ・大学全体でPBL教育に関する研究に取り組んでいる。 ・開発型研究の推進により、論文や学会発表という形で成果が出ていることは評価できる。今後も、ネットワークサービスプラットフォーム研究所、AIIT産業デザイン研究所、ビッグデータ研究所の開発型研究の成果に期待する。	2	・PBL教育に関する研究など、産技大の教育実践で得られた成果を広く発信し、それらの研究面でも存在感を示してほしい。 ・ネットワークサービスプラットフォーム研究所、AIIT産業デザイン研究所、ビッグデータ研究所の開発型研究に大いに期待したい。		
	【2-18】開発型研究の推進等	A			2			
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・研究成果の社会への還元を目的とし、ネットワークサービスプラットフォーム研究所等の諸研究所において、開発型研究を実施した。【2-18】 【今後の課題、改善を要する取組】 ・ブレンディッド・ラーニングの効果を検証し、学修方法の改善を図るための研究を進める必要がある。【2-17】				2	・研究成果の社会への還元を目的とし、ネットワークサービスプラットフォーム研究所等の諸研究所において、開発型研究を実施した。		
					2	・PBL教育に関する研究会の実施、ブレンディッド・ラーニングの実践的な教育研究をとおして、教育手法に関する研究を推進した。 ・開発型研究の推進により、論文や学会発表という形で成果が出ていることは評価に値する。		
					2			
					2	・大学として、PBL教育に関する研究に取り組んでいる。 ・研究所では開発型の研究を大学独自、あるいは産業界や都の機関と共同で進めている。		
			2	・研究成果の社会への還元を目的とし、ネットワークサービスプラットフォーム研究所等の諸研究所において、開発型研究を実施した。				
24 研究実施体制等	【平成26年度に中期計画を達成済み】		##	(評価書)				
			(参考意見書)					

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】							評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会貢献に関する目標を達成するための措置 (1)都政との連携に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）		委員による評定及び評価コメント	
25 都政との連携に関する取組	【2-19】自治体との連携強化等		A	2	(評価書) ・東京都及び市区町村の政策課題に対する支援として連携事業を実施し、都各局事業の円滑な運営や地域社会の発展に貢献した。 ・都及び市区町村の職員に対するIT関連研修を受託し、人材育成に貢献した。	2		
	【2-20】都及び区市町村職員の人材育成に対する支援		A			2		
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・東京都産業労働局の「東京の中小企業の現状」作成を支援し、シンクタンク機能を発揮するとともに、都や自治体が抱える様々な課題に対し、産技大の持つ実践的な知見や学術知識を活用することで、都各局事業の円滑な運営や地域社会の発展に貢献した。【2-19】 ・東京都総務局情報通信企画部との連携事業「IT応用コース研修」により、引き続き東京都職員の人材育成を実施したとともに、IT研修を行い、職員の人材育成の支援を行った。【2-20】		2			・東京都産業労働局の「東京の中小企業の現状」作成を支援し、政策課題に対するシンクタンク機能を発揮するとともに、都や自治体が抱える様々な課題に対し、産技大の持つ実践的な知見や学術知識を活用することで、都各局事業の円滑な運営や地域社会の発展に貢献した。		
			2			・東京都及び区市町村の政策課題に対する支援として連携事業を実施した。 ・都及び区市町村の職員に対するIT関連研修を受託し、人材育成に貢献した。		
			2					
			2			・都の審議会の委員として参加している。地元区などの講座やセミナーに講師として派遣したり、イベントに協力している。 ・都や区市町村職員の人材育成支援として、「IT応用研修」に協力している。		
			2			・東京都産業労働局の「東京の中小企業の現状」作成を支援した。 ・総務局情報通信企画部との連携事業「IT応用コース研修」により、東京都職員の人材育成を実施した。		
		(参考意見書)	2					
中期計画に係る該当項目		Ⅲ 産業技術大学院大学に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会貢献に関する目標を達成するための措置 (2)社会貢献等に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）		委員による評定及び評価コメント	
26 産学公の連携推進	【2-21】中小企業との連携事業の実施等		A	2	(評価書) ・東京商工会議所を介して中小企業との交流機会の拡大が図られていることは評価できる。 ・複数の連携事業により外部資金獲得額を大きく増加させていることも評価できる。	2	・複数の連携事業により外部資金獲得額を大きく増加させていることを評価したい。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・引き続き、東京商工会議所の産学公連携相談事業に協力機関として参画したほか、企業内中核人材育成懇話会を開催するなど、中小企業等との連携事業を実施し、多様な社会貢献活動を推進した。【2-21】		2			・東京商工会議所を介して中小企業との交流機会の拡大が図られていることは評価できる。 ・外部資金の獲得額が拡大したことも高く評価できる。		
			2			・中小企業からの相談窓口を学内に設置し、産技大直接あるいは、東京商工会議所等を介した技術相談に対応し中小企業への支援を充実させた。		
			2			・東京商工会議所を介した中小企業との意見交換や相談窓口としての役割を果たした。 ・連携事業の外部資金の獲得が順調である。		
			2					
			2			・中小企業との連携事業として地元金融機関と連携し、人材育成事業に参加している。また、中小企業の相談窓口を設置し、支援を続けている。		
			2			・学内の相談窓口を設けた。 ・起業支援のための支援サービスの充実を検討した。 ・中小企業等との各種の連携事業を実施し、多様な社会貢献活動を推進した。		
27 地域貢献等	【2-22】専門職コミュニティの形成の推進		A	2	(評価書) ・AIITマンスリーフォーラムを地道に継続し、定着させていることは評価できる。 ・AIITキャリアクラブの活動と成果に期待する。	2	・AIITマンスリーフォーラムを地道に継続し、定着させていることを評価したい。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・マンスリーフォーラムを継続実施するとともに、ラーニングフェロー制度の試行運用を実施した。【2-22】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・ラーニング・フェロー制度について検証を行い、改善を図る。【2-22】		2					
			2			・専門職コミュニティの形成推進のため、AIITマンスリーフォーラムを開催し、地域・産業界のニーズにタイムリーに答えたテーマを選定し、専門職コミュニティの形成を推進した。		
			2			・AIITキャリアクラブの活動と成果に期待したい。		
			2					
			2			・専門職コミュニティを形成するため、例年通り、AIITマンスリーフォーラムを開催した。ただ、ここ数年は参加者が減少傾向にある。		
	2	・専門職コミュニティの形成推進のため、AIITマンスリーフォーラムを開催した。 ・継続学修を促すための制度であるラーニングフェロー制度の実施に向けて準備に取り組んだ。						



平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】							評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅳ 東京都立産業技術高等専門学校に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1)教育の内容等に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）	委員による評定及び評価コメント		
28 入学者選抜	【3-01】女子中学生向け広報物の充実	A	2	（評価書） ・女子中学生向け広報を充実させ、女子学生の入学数が増加し、理系女子のホームページのアクセス数も急増したことは評価できる。 ・新たな推薦制度の準備を進めており、入試制度の多様化を図っている。	2	・女子中学生向けの広報を充実させており、女子学生の入学生もH27年度の23名から28年度は30名に増加している。		
	【3-02】特別推薦入試制度の実施に向けた取組	A			2	・女子中学生向け広報を充実させ、理系女子のホームページのアクセス数が急増したことは評価できる。		
	【3-03】学内及び学外に対するCI(カレッジ・アイデンティティ)浸透活動	A			2	・新たに開設したFacebook及びTwitterにより、多重的な情報発信が可能となるとともに、本校のHPとリンクさせることでアクセシビリティを向上させた。		
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・Facebook及びTwitterを開設し、高専ウェブサイトとのリンクによりアクセシビリティを向上させた。【3-03】				2	・広報活動に取り組んだ結果、女子学生の入学数増加という成果が挙げた。 ・新たな推薦制度の準備を進めており、入試制度の多様化を図っている。		
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・ものづくりに意欲的に取り組む多様な学生を確保するための取組と並行し、女子学生の確保に向けた取組を継続する。【3-01】				（参考意見書）	2		
					2	・志願者確保のため、女子学生向けの広報や特別推薦入試への取り組み、さらにインターネットを活用した情報発信に努めている。		
					2	・女子学生の確保に向けて、女子中学生向け広報物を作成しPRに努めた。		
29 教育課程・教育方法	【3-04】各コースの実験・実習設備の充実及び指導書等の作成・指導体制の推進等	A	2	（評価書） ・新教育課程で学生の主体的な学びを促すよう実験・実習施設を整備すると共に、指導書の作成や指導体制を整備しており、評価できる。 ・体系的キャリア支援として、低学年からキャリア形成の意識を促す取組を行っている。低学年学生の進路に関する悩みの解消や女子学生の女性技術者としてのキャリアプランに大いに役立っており、評価できる。 ・GCP、海外インターンシッププログラム、GEPの3プログラムを中心に国際社会で活躍できるエンジニア育成に向けて取組を強化している。 ・JABEE受審を視野に入れた教育内容の整備として、カリキュラムの調整、具体的なスケジュールの作成、教室などの整備を行っていることは評価できる。	1	・新教育課程に対応した教育環境・指導体制の整備を行っている。 ・JABEE受審を視野に入れた教育内容の整備を行っていることは評価できる。一方で、JABEEの課題を指摘する声も少なくないことから、JABEE受審が真に教育の高度化につながり、学生のためになるように、先行事例の把握を含めて、十分な検討をお願いしたい。		
	【3-05】教員研修の実施内容の検証	A			2	・国際社会で活躍できるエンジニアの育成や女子学生のキャリア支援に関して、積極的な取組が見られる。		
	【3-06】グローバル化に対応した国際社会で活躍できるエンジニアの育成	A			1	・新たに設置したキャリア支援センターを中心として、キャリア支援体系を構築し、就職や進学に関わる支援内容の見直しや支援内容の統一化を図るとともに、新たに低学年からキャリア形成の意識付けを促す行事や女子学生向けキャリア支援を導入した。		
	【3-07】体系的なキャリア支援の実施	S			2	・キャリア支援センターを中心に、体系的なキャリア支援の体制を整えた。		
	【3-08】複線型教育システムの拡充・推進	A	（参考意見書） ・JABEEに認定されれば、教育内容が社会的に評価されることから、認定に向けての努力を評価し、成果を大いに期待する。一方で、JABEEの課題を指摘する声も少なくないことから、JABEE受審が真に教育の高度化につながり、学生のためになるように、先行事例の把握を含めて、十分な検討をお願いしたい。		2			
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・新教育課程の実施に向けて、実験実習設備の整備を行うとともに、指導書の作成や指導体制を整えた。【3-04】 ・平成26年度に新たに設置したキャリア支援センターを中心として、キャリア支援体系を構築し、就職や進学に関わる支援内容の見直しや各キャンパスで個別に実施していた支援内容の統一化を図るとともに、新たに低学年からキャリア形成の意識付けを促す行事や女子学生向けキャリア支援を導入した。【3-07】					1	・新教育課程で学生の主体的な学びを促すよう実験・実習施設を整備すると共に、指導書の作成や指導体制を整備している。 ・JABEE受審を視野に入れた教育内容の整備として、カリキュラムの調整、具体的なスケジュールの作成、教室などの整備を行っている。JABEEに認定されれば、教育内容が社会的に評価されることから、認定に向けての努力を評価し、成果を大いに期待する。 ・ICTを活用した教育を推進するため学内のネットワーク環境の整備など、学内システムの改修等を行っている。取組を評価する。 ・グローバル化に向けた対応が顕著である。 ・体系的キャリア支援として、低学年からキャリア形成の意識を促す取組を行っている。低学年学生の進路に関する悩みの解消や女子学生の女性技術者としてのキャリアプランに大いに役立っている。	
【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、新教育課程の実施に向けた実験実習設備の整備を行っていく。【3-04】					2	・新教育課程において学生の主体的な学習を促す質の高い教育を実施できるよう、6コースにおいて実験・実習設備を整備した。		

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

中期計画に係る該当項目	Ⅳ 東京都立産業技術高等専門学校に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2)教育の実施体制等に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
30 教育の実施体制	平成23年度に中期計画達成済み		##	(評価書)		
			(参考意見書)			
31 教育の質の評価・改善	【3-09】学生の学習到達達成度に基づく授業改善に資する仕組みの検討・実施	A	2	(評価書) ・校務システム内に「自己評価機能」を構築し、教員の設定した到達目標に対して、学生が自己評価を行い、その結果を担当教員にフィードバックするようにしたことは学生はもちろん教員にも、教育効果を高める先駆的な教育改善方法であり、評価できる。その成果についても検証していただきたい。	2	・校務システム内に「自己評価機能」を構築し、教員の設定した到達目標に対して、学生が自己評価を行い、その結果を担当教員にフィードバックするようにしたことは興味深い取組であり、その成果に期待したい。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・教員の設定したシラバスの到達目標に対し、学生自身が自己評価を行うシステムを校務支援システム上に構築した。【3-09】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、学生の自己評価を通じ、個々の学習のPDCAサイクルを構築するとともに、授業の難易度や授業内容の改善等を行い、教員側のPDCAサイクルを着実に実施する。【3-09】	(参考意見書)			2	・学生の立場に立って、授業の改善が図られていることは評価できる。
					2	・教員の設定した各教科の到達目標に対して、学生が自己評価を行い、評価結果を教科担当教員にフィードバックできるよう、校務支援システム内に、「自己評価機能」を構築し、学生の自己評価を通じた個々の学習のPDCAサイクルを構築するとともに、授業の難易度や授業内容の改善等を行い、教員側のPDCAサイクルを構築した。
					2	・学生の自己評価システムから、主体的な授業参加を促す方法(反転授業やアクティブラーニング)の一部導入を行ったとある。教員の負担の度合いと、その成果について検証する必要がある。
					2	
			2			
			1	・教員の設定した到達目標に対し、学生が自己評価を行い、評価結果を担当教員にフィードバックするするシステムを構築している。学生はもちろん教員にも、教育効果を高める先駆的な教育改善方法であり、高く評価する。		
			2	・教員の設定した各教科の到達目標に対して、学生が自己評価を行い、評価結果を教科担当教員にフィードバックできるよう、校務支援システム内に「自己評価機能」を構築した。		

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】							評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅳ 東京都立産業技術高等専門学校に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3)学生支援に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）	委員による評定及び評価コメント		
32 学生支援に関する取組	【3-10】GCO運営の検証・改善等		A	2	(評価書) ・GCO(国際交流ルーム)の利用率向上の取組として、GCO利用実績をポイント化し、すべての海外派遣プログラム応募申請時に活用することができるようにするなど、運営の改善を図ったことで、利用実績を増加させた。英語力向上や留学支援の体制が構築されており評価できる。 ・心理テストの導入は、学生の心の変化を知るうえで素晴らしい取組である。学生相談の方法を改善していることは評価できる。今後は学生相談の内容を分析し、学校運営の改善にも活かしていくことを期待する。 ・未来工房や未来工房ジュニアなど、ものづくりに対する学生の好奇心・向上心を応援する支援プロジェクトを実施しており、コンテストで優秀な成績を収めるなど、成果を挙げている。	2	・未来工房や未来工房ジュニアなど、ものづくりに対する学生の好奇心・向上心を応援する支援プロジェクトを実施しており、コンテストで優秀な成績を収めるなど、成果を挙げている。 ・学生相談件数が増加していることをどう認識すべきか、考え方を聞きたい。	
	【3-11】学生サポートセンターと連携した進路支援の実施等		A			2	・心理テストの導入など、学生相談の方法も改善し、相談件数も増加していることは評価できる。今後は相談内容を分析し、学校運営の改善にも活かしてほしい。	
	【3-12】経済的支援策のあり方に関する検討		A			2	・海外派遣プログラム応募申請でのGCOポイントの提出(任意)をGCP以外に、海外IS、GEPにも拡充することで、GCO利用実績を増加させた。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・学生の海外派遣プログラムへの参加に繋がる仕組の構築により、GCOルームの利用率が向上した。【3-10】		2			・国際交流ルームGCOの利用率の向上など、英語力向上や留学支援の体制が構築された。		
				2				
				2				
					2	・多様な課外活動を支援するため、学生が自分で工夫しながら学べる工房を実施している。 ・学生サポートセンターと連携した進路支援をきめ細かく行っている。 ・学生相談の一環として、心理テストを行っている。学生の心の変化を知るうえで素晴らしい取組である。 ・カウンセラーによる相談件数は次第に増えている。 ・経済的支援として授業料・入学料等の免除を行っている。また、支援のあり方について検討している。		
				2	・海外派遣プログラム応募申請でのGCOポイントの提出(任意)をGCP以外に、海外IS、GEPにも拡充することで、運営の改善を図った。			
中期計画に係る該当項目		Ⅳ 東京都立産業技術高等専門学校に関する目標を達成するために取るべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 研究に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）	委員による評定及び評価コメント		
33 研究に関する取組	【3-13】研究支援制度の検討		A	2	(評価書) ・若手教員を対象に、外部講師による書類作成時のアドバイスや添削を実施するなど、外部資金獲得に向けた支援は評価できる。 ・若手教員を対象とする外部資金獲得支援は、短期間で効果が出る訳ではないので、中長期的な視点で継続していくという計画は妥当である。	2	・若手教員を対象にした外部資金獲得に向けた支援などの取組を評価したい。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・研究活動の活性化のため、既存の研究支援制度の見直しを行い、新たな研究体制を構築した。【3-13】		2					
			2			・若手教員を対象に、外部講師による個人面談及び書類作成時のアドバイスや添削などの個別指導を実施するなどし外部資金獲得に向けた支援を行った。		
			2			・若手教員を対象とする外部資金獲得支援は、短期間で効果が出る訳ではないので、中長期的な視点で継続していくという計画は妥当である。		
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・引き続き、若手教員を対象とした外部資金獲得に向けた支援を実施していく。【3-13】		2	(参考意見書)				
				2				
				2				
				2	・若手教員の科研費申請の支援を行っている。 ・研究支援制度の見直しを実施し、具体的に検討している。			
				2	・10名の若手教員を対象に、外部講師による個人面談及び書類作成時のアドバイスや添削などの個別指導を実施した。 ・全教員を対象として、「科研費の採択と活用につながる3つのアプローチ」をテーマとした講演会を開催した。			



平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

中期計画に係る該当項目						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
34 都政との連携に関する取組	【3-14】オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた取組内容及び体制の検討	A	2	(評価書) ・東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えた車椅子利用者対応の計画を立て、実施体制を構築した。荒川区の中学生との協働は、地域連携としても意味がある。	2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた実施体制を構築した。【3-14】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・構築した体制に基づき、オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた取組を着実に実施していく。【3-14】				2	
					2	・オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、車椅子利用者にとって不便と感じる段差等がある危険な道などを掲載した、スマートフォンで使える区内のマップの作成について、荒川区や中学校との実施体制や今後のスケジュール等を検討した。
					2	・オリンピック・パラリンピックを見据えた車椅子利用者対応の計画を立て、実施体制を構築した。荒川区の中学生との協働は、地域連携としても意味がある。
					2	
			2	・東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えて検討を始めた。車いす利用者へ道路に関する情報を発信することを検討している。		
			2	・オリンピック・パラリンピック開催に向けた具体的な取組内容及び体制を検討し、荒川区の中学生と協働した取組を実施した。		
中期計画に係る該当項目						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
35 産学公の連携推進	【3-15】地域連携の強化	A	2	(評価書) ・区や地域と連携したイベント等で高専の存在感を示せており、区の産業展で展示するという実績も挙げた。 ・地域に向けて、学生の研究等について積極的に情報発信していることは評価できる。	2	
	平成26年度に中期計画達成済み    【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・TASKプロジェクト等との連携により、本校の水力発電の教材が、3月の荒川区の産業展で展示されることとなった。【3-15】				2	・地域に向けて、学生の研究等について積極的に情報発信していることは評価できる。
					2	・ATN(アラカワテクノネットワーク)の会議にて、本校の水力発電の教材の地域貢献の観点の評価され、3月の荒川区の産業展にて展示された。
					2	・区との地域連携を進め、区の産業展で展示するという実績も挙げた。
					2	
			2	・品川・荒川キャンパスでは、区や地域と連携したイベント等で高専の存在感を示せている。		
			2	・ATN(アラカワテクノネットワーク)の会議にて、本校の水力発電の教材の地域貢献の観点の評価され、3月の荒川区の産業展にて展示された。		

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

36 地域貢献等	【3-16】中小企業のニーズに対応した人材育成の充実	A	2	(評価書) ・大田区、品川区の中小企業の人材育成ニーズに対応した取組を継続していることは、都立の高専の役割として重要である。また、多くの参加者が満足できる結果が得られている。	2	・大田区、品川区の中小企業の人材育成ニーズに対応した取組を継続していることは、都の高専の役割として重要である。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・オープンカレッジの充実化のための方針を策定した。【3-16】  【今後の課題、改善を要する取組】 ・策定したオープンカレッジの充実化の方針に基づき、中小企業のニーズに応じた講座を開講する。【3-16】	2				
		2			・大田区産業振興協会及び品川区から受託され実施している若手技術者支援のための講座では、基礎講座(6講座)を実施し、アンケートで、全体の満足度が79%、充実度が95%という結果を得ることができ、技術者に対し、スキルアップにつながる「学び直し」の場を提供することができた。	
		2			・ 中小企業のニーズに対応した学びの場を提供した。受講者の満足度は高いものであった。	
		2				
	(参考意見書)	2	・中小企業の若手技術者を対象に基礎講座を開き、多くの参加者が満足できる結果が得られている。			
		2	・大田区産業振興協会及び品川区から受託され実施している若手技術者支援のための講座では、基礎講座(6講座)を実施した。 ・中小企業から情報を収集し、オープンカレッジの充実化を図るための検討を行った。			
中期計画に係る該当項目	Ⅴ 法人運営の改善に関する目標を達成するために取るべき措置 1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 組織運営の改善に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
37 戦略的な組織運営	平成23年度に中期計画達成済み		##	(評価書)		
			(参考意見書)			

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

38 組織の定期的な検証	【4-01】首都大における教育・研究組織の再編成案の検討	A	2	(評価書) ・教育・研究組織の再編成について、学長・副学長・各部長を中心に議論を重ね、教育研究審議会で決定の上、経営審議会に諮り、再編成後の組織構成、入学定員及び教員定数の最終案を取りまとめた。	2	
	平成24年度に中期計画達成済み				2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・首都大学東京の教育・研究組織の再編成について、組織構成、入学定員及び教員定数の最終案を取りまとめた。【4-01】				2	・教育・研究組織の再編成について、学長・副学長・各部長を中心に議論を重ね、教育研究審議会で決定の上、経営審議会に諮り、再編成後の組織構成、入学定員及び教員定数を定めた。
	【今後の課題、改善を要する取組】 ・首都大学東京の教育・研究組織の再編成に向けた具体的な対応を進めていく。【4-01】			(参考意見書)	2	・首都大学東京の教育・研究組織の再編成について、組織構成、入学定員及び教員定数の最終案をとりまとめ、認可申請の準備作業を開始した。
					2	
					2	・首都大の教育・研究組織の再編について、大学執行部と議論を重ね、ほぼ成案が出来上がった。
					2	・教育・研究組織の再編成について、学長・副学長・各部長を中心に議論を重ね、組織構成、入学定員及び教員定数の最終案を取りまとめた。
39 教員人事	【4-02】新たな教員人事制度の定着の推進及び運用改善の検討	A	2	(評価書) ・新たな教員人事制度の定着を進めるとともに、3名の研究重点教員支援制度適用対象者を決定した。 ・新任教員に対する研修や、厳格なクオリティチェックによる採用など、質の確保に力を入れていることは評価できる。新任教員の研修について、研修内容が充実した他大学と比較して、首都大の研修はどのような状況にあるのか、今後は十分な検討が必要である。 ・産技大、高専において、新任教員に対して教育方法に関する研修を実施していることが授業力アップにつながっていると考えられる。	2	・新任教員の研修については、全員必修でかつ内容の濃いプログラムを用意して実施している大学も増えつつある。それらの大学と比較して、首都大学東京の研修はどのような状況にあるのか、十分な検討が必要である。
	【4-03】特別研究期間制度の適切な運用等	A			2	・新任教員に対する研修や、厳格なクオリティチェックによる採用など、質の確保に力を入れていることは評価できる。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・研究重点教員支援制度を活用し、より一層の教育研究の活性化を図った。【4-02】				2	・研究重点教員支援制度について、手続き等を定め適用対象者3名を決定した。
				(参考意見書)	2	
					2	・研究重点教員支援制度の運用を開始し、適用対象者を決定した。 ・産技大、高専において、新任教員に対して教育方法に関する研修を実施していることが授業力アップにつながっていると考えられる。
					2	
					2	・新たな教員人事制度の定着を進めるとともに、3名の研究重点教員支援制度適用対象者を決定した。 ・教員採用人事で厳格なクオリティチェックを行って決定した。 ・特別研究機関制度を適切に運用し、首都大で33名、高専で1名の研究に専念できる教員を決めた。
					2	・研究重点教員支援制度について、手続き等を定め適用対象者を決定した。



評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

40 職員人事	【4-04】平成26年度の職員人事制度改正を踏まえた実施手続きの整備	A	2	(評価書) ・加速する国際化に対応して、研修の実施、海外研修プログラムの見直し等、組織として職員の語学力向上に取り組んだ。より本格的に取り組むべき課題であるため、今後の取組に期待する。 ・採用スケジュールの工夫により、競争倍率を保ち、質の高い職員を選抜した。採用した職員が希望を持って働き、存分に力を発揮出来る環境を整えるべく、引き続き注力していただきたい。	2	・職員の公募が20倍を超える競争倍率になったことは、優れた職員を確保するという点で良いことだが、そのようにして採用した職員が希望を持って働き、存分に力を発揮出来る環境を整えるべく、引き続き注力していただきたい。 ・国際化に対応した職員育成については、報告書を読む限り、部分的な取組にとどまっている印象がある。より本格的に取り組むべき課題である。
	【4-05】就職活動の後ろ倒し化に対応した採用の実施	A			2	・職員の質向上に向けて積極的な取り組みが見られる。
	【4-06】職員の国際化に係る方針の策定	A			2	・「公立大学法人首都大学東京 国際化に対応する職員育成方針」を策定し、法人として国際化に対応する職員の目指すべき人材像の要素に、語学力、実践的英語力及び異文化・多様性理解の3項目を掲げ、職員の育成に向けた具体的な取組を明確に示した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・加速する高等教育機関の国際化に対応する職員の育成を更に推進するために、国際化に対応する職員育成方針を策定した。【4-06】				2	・採用スケジュールの工夫により、競争倍率を保ち、質の高い職員を選抜した。 ・加速する国際化に対応して、研修の実施、海外研修プログラムの見直し等、組織として職員の語学力向上に取り組んだ。
					2	
41 各センター組織の機能強化	【4-07】キャリア支援の実施	A	2	(評価書) ・産学公連携センターに、従来の知財、法務に加えて、コンプライアンス係を新設して、各組織からの相談にワンストップで対応できる相談体制を整えた。 ・外部資金の獲得目標を設定し、目標達成に向けて研究計画調書作成に関する講習会を開催するなど、教員の支援を組織的に行っている点は評価できる。	2	・外部資金の獲得目標を設定し、それに向けて教員の支援を組織的に行っている点は評価できる。
	【4-08】新たな研究支援体制の更なる検討	A			2	・URAが成果を上げていることは評価できる。
	【4-09】外部資金獲得額の目標設定及び教員支援	A			2	・首都大学東京、産業技術大学院大学、産業技術高等専門学校における連携活動は、2大学1高専所属の組織主導で行い、産学公連携センターは、知財、法務に加え、今年度からコンプライアンス統括部門としてコンプライアンス係を新設して、より専門的な支援を行う体制を試行した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・首都大学東京、産業技術大学院大学、産業技術高等専門学校における連携活動は、2大学1高専所属の組織主導で行い、産学公連携センターは、知財、法務に加え、今年度からコンプライアンス統括部門としてコンプライアンス係を新設して、より専門的な支援を行う体制を試行した。【4-08】				2	・産学公連携センターに、従来の知財、法務に加えて、コンプライアンス係を新設して、各組織からの相談にワンストップで対応できる相談体制を整えた。
			2			
			2	・2大学1高専にキャリア支援カウンセラーを派遣し、支援した。 ・産学公連携センターにコンプライアンス係を設置し、2大学1高専に専門的な支援を行う体制を試行した。		
			2	・産学公連携センターに、法人内のコンプライアンス統括部門としてのコンプライアンス係を設置した。 ・首都大学東京、産業技術大学院大学、産業技術高等専門学校における連携活動は、2大学1高専所属の組織主導で行い、産学公連携センターは専門的な支援を行う体制を試行した。		

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】						評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅴ 法人運営の改善に関する目標を達成するために取るべき措置 2 業務執行の効率化に関する目標を達成するための措置 業務執行の効率化に関する取組					
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 （素案）	委員による評定及び評価コメント	
42 業務執行の効 率化に関する取 組	【4-10】多様な就業形態バランスの検討による職員定数の最適化(4-18再掲)		A	2	(評価書) ・庶務業務の効率化や外部委託化に向けた取組など、業務効率化に向けた積極的な取組が見られる。 ・グループウェアを法人内教職員統一のものに再構築することで、e-learningの効果的な実施や情報の集約化を図ることができた。その成果を期待する。	2	・各キャンパスの視察やヒアリングを通して、仕事の実態や職員の問題意識が十分に引き出せているのか。どのような組織でも実態や本音を引き出すことは難しい。引き続き、工夫を重ねつつ注力してほしい。 ・グループウェアの再構築については、その成果を期待したい。
	【4-11】職員がより業務に専念できる環境整備の推進(4-19再掲)		A			2	・庶務業務の効率化や外部委託化など、効率化に向けた積極的な取組が見られる。
	【4-12】グループウェアの再構築による業務執行の効率化(4-20再掲)		A			2	・キャンパス等によって統一されていなかったグループウェアを、法人教職員統一のグループウェアへ再構築を行い、稼動を開始した事により、効果的な研修実施を可能とし、全キャンパスのスケジュール確認が可能になったことや、教職員が連絡先を同一サイトで確認できるなどの情報の集約化に資した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・キャンパス等によって統一されていなかったグループウェアを、法人内教職員統一のグループウェアへ再構築した。【4-11】 ・庶務担当者への業務ヒアリングを行い、庶務業務における課題事項の抽出、解決方法の検討を行った。【4-11】		2			・グループウェアを法人内教職員統一のものに再構築することで、e-learning の効果的な実施や情報の集約化を図ることができた。	
			2				
			(参考意見書) ・各キャンパスの視察やヒアリングを通して、仕事の実態や職員の問題意識が十分に引き出せているのか。どのような組織でも実態や本音を引き出すことは難しい。引き続き、工夫を重ねつつ注力してほしい。	2	・庶務業務の効率化に向けて、改革プロジェクトチームを立ち上げ、効率化と外部委託化について検討している。また、グループウェアの再構築による業務執行の効率化を開始した。		
				2	・キャンパス等によって統一されていなかったグループウェアを、法人教職員統一のグループウェアへ再構築を行い、平成27年7月より稼動を開始した。		
中期計画に係る該当項目		Ⅵ 財務運営の改善に関する目標を達成するために取るべき措置 1 自己収入の改善に関する目標を達成するための措置 自己収入の改善に関する取組					
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 （素案）	委員による評定及び評価コメント	
43 自己収入の改 善に関する取組	【4-13】外部資金獲得に向けた教員支援メニューの拡充		A	2	(評価書) ・外部資金の獲得のため、URA室により教員支援を強化した結果、獲得額が増加した。 ・一方で、寄附金獲得に向けた取組については、着実な成果を挙げるための抜本的な対策を講じる必要がある。 ・事業収入面での増収は容易でないと思われるが、オープンユニバーシティ講座の開講は社会貢献として重要である。	2	・URA室を設置して取り組んでいるが、URAを配置したものの、十分に機能していない大学は少なくない。首都大学東京の場合、どのような体制で、いかなる機能を果たしており、周囲はどう評価しているかなど、簡潔に報告書にまとめるようにしてほしい。 ・寄付金獲得はほとんど成果を挙げていると思われる。何が問題なのか検討し、抜本的な対策を講じるべき。
	【4-14】寄付金獲得に向けた取組		A			2	・安定的に外部資金が獲得できていることは評価できる。
	【4-15】首都大のプレゼンス向上に向けた講座の実施		A			2	・URA室による首都大教員支援の強化により、2大学1高専の外部資金獲得金額が増加した。 ・首都大学東京研究重点教員支援制度による支援対象者に対して、施設負担料の50%を減免する新たな条項をプロジェクト研究棟管理運営規程に設け、運用を開始した。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・首都大学東京研究重点教員支援制度による支援対象者に対して、施設負担料の50%を減免する新たな条項をプロジェクト研究棟管理運営規程に設け、運用を開始した。【4-13】		2			・多様な研究費獲得支援を行った。 ・事業収入面での増収は容易でないと思われるが、オープンユニバーシティの開講は社会貢献として重要である。	
			2				
			(参考意見書) ・URA室を設置して取り組んでいるが、URAを配置したものの、十分に機能していない大学は少なくない。首都大の場合、どのような体制で、いかなる機能を果たしており、周囲はどう評価しているかなど、簡潔に報告書にまとめるようにしてほしい。	2			
				2	・外部資金の獲得のため、URA室により教員支援を強化した結果、獲得額が増加した。		
				2	・首都大学東京研究重点教員支援制度による支援対象者に対して、施設負担料の50%を減免する新たな条項をプロジェクト研究棟管理運営規程に設け、運用を開始した。		

評定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
----	--

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】						評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。	
中期計画に係る該当項目		Ⅵ 財務運営の改善に関する目標を達成するために取るべき措置 2 経費の節減に関する目標を達成するための措置 経費の節減に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）		委員による評定及び評価コメント	
44 経費の節減に関する取組	【4-16】教員人事計画の策定と適切な現員管理		A	2	(評価書) ・施設整備計画に基づいて省エネルギー効果の高い機器への更新を行い、法人全体の電気使用量を前年度比0.4 %削減した。 ・経費節減のための取組の全体像や目標などを分かりやすく社会に示し、現在の状況、課題を明らかにしていく必要がある。 ・ICT環境の整備にも積極的な取組が見られる。	2	・経費節減のための取組の全体像や目標などが不明であり、現在の状況をどう評価し、いかなる課題があるかも明らかにされていない。経費節減に対する本気度に対して都民が疑問に感じる可能性もある。 ・グループウェアの再構築による業務執行の効率化は評価できる。具体的な成果を期待したい。	
	【4-17】省エネルギー効果の高い機器への更新		A			2	・電力使用量が大きく減っていることは評価できる。 ・ICT環境の整備にも積極的な取組が見られる。	
	【4-18】多様な就業形態バランスの検討による職員定数の最適化(4-10再掲)		A			2	・電気料金等の着実な削減に向けて、施設整備計画等に基づき、省エネルギー効果の高い機器への更新を進めたことにより、法人全体で電気使用量が前年度比で0.4%削減した。	
	【4-19】職員がより業務に専念できる環境整備の推進(4-11再掲)		A	(参考意見書)		2	・施設整備計画に基づいて省エネルギー効果の高い機器への更新を行い、法人全体の電気使用量を前年度比0.4 %削減した。	
	【4-20】グループウェアの再構築による業務執行の効率化(4-12再掲)		A			2		
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・電気料金等の着実な削減に向けて、施設整備計画に基づき、省エネルギー効果の高い機器へ更新した。【4-17】					2	・施設整備計画等に基づき、省エネ効果の高い機器への更新を進めている。学生寮の給排水衛生設備や人感センサーの設置、省エネ性の照明設備に更新などの工事等を行った。	
					2	・施設整備計画等に基づき、設備改修工事を実施し、省エネルギー効果の高い機器への更新を進めた。		
中期計画に係る該当項目		Ⅵ 財務運営の改善に関する目標を達成するために取るべき措置 3 資産の管理運用に関する目標を達成するための措置 資産の管理運用に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価（素案）		委員による評定及び評価コメント	
45 資産の管理運用に関する取組	【4-21】効率的な知的財産の運用等		A	2	(評価書) ・著作権の取扱いについて、リーフレットを作成した。オンデマンド講義に際して著作権法上の問題の起きにくい講義資料の作成方法について教員の理解が促進された。 ・運用益が安定的に確保され、適切に資金管理がなされている。	2		
	【4-22】適切かつ効率的な資金の管理・運用		A			2	・運用益が安定的に確保され、適切に資金管理がなされている。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・産技大の遠隔授業、首都大のOCW試行に向け、インターネットを利用したオンデマンド講義用教材作成のガイドラインとなる著作権リーフレットを作成し、2大学1高専の全教員に配布するとともにHPで公表した。【4-21】					2	・産技大の遠隔授業、首都大のOCW試行に向け、インターネットを利用したオンデマンド講義用教材作成のガイドラインとなる著作権リーフレットを作成し、2大学1高専の全教員に配布するとともにHPで公表したことにより著作権の取扱いについて全教員の理解が促進された。	
						2	・著作権の取扱いについて、リーフレットを作成した。オンデマンド講義に際して著作権法上の問題の起きにくい講義資料の作成方法について教員の理解が促進された。	
						2		
	(参考意見書)			2	・保有財産を適切かつ効率的に運用し、8700万円余の運用益を得た。			
				2	・産技大の遠隔授業、首都大のOCW試行に向け、インターネットを利用したオンデマンド講義用教材作成のガイドラインとなる著作権リーフレットを作成し、2大学1高専の全教員に配布するとともにHPで公表した。			

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--



評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

Ⅶ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置 1 自己点検・評価等に関する目標を達成するための措置 自己点検・評価等に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
46 自己点検・評価等に関する取組	【4-23】自己点検・評価活動の実施等	A	2	(評価書) ・首都大は平成28年度に認証評価を受審するが、そのための自己点検評価書の作成を進めている。 ・産技大の情報アーキテクチャ専攻は認証評価を受け、高い評価を受けた。 ・高専は運営協力者会議において評価を受け、全体として「おおむね妥当」との評価を受けた。 ・評価結果を改善につなげていることは評価できる。	2
	【4-24】認証評価に係る改善計画の達成状況の確認等	A		2	・評価結果を改善につなげていることは評価できる。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・平成23～26年度に実施した自己点検・評価活動の結果等を踏まえ、平成28年度の認証評価受審に向けた自己評価書の作成を進めた。【4-23】			2	・平成23～26年度に実施した自己点検・評価活動の結果等を踏まえた、自己評価の実施により、首都大の優れた点及び改善を要する点を整理し、平成28年度の認証評価受審に向けた自己評価書の作成を進めた。
				2	・平成23～26年度に実施した自己点検・評価活動の結果等を踏まえ、平成28年度の認証評価受審に向けた自己評価書の作成を進めた。
				2	
				2	・首都大学は平成28年度に認証評価を受審するが、そのための自己点検評価書の作成を進めている。 ・産技大の情報アーキテクチャ専攻は認証評価を受け、高い評価を受けた。 ・高専は運営協力者会議において評価を受け、全体として「おおむね妥当」との評価を受けた。
				2	・平成23～26年度に実施した自己点検・評価活動の結果等を踏まえ、平成28年度の認証評価受審に向けた自己評価書の作成を進めた。
Ⅶ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置 2 情報提供等に関する目標を達成するための措置 情報提供等に関する取組					
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント
47 情報提供等に関する取組	【4-25】個人情報保護及び情報セキュリティに関する取組	A	2	(評価書) ・全国紙への学長対談記事の掲載をはじめ、産技大10周年記念事業など、認知度向上に向け積極的に取り組んでいる。 ・標的型攻撃メールに関する訓練を実施し、教職員の意識を高めるなど、情報セキュリティ事故再発防止に向けた取組を継続している。	2
	【4-26】認知度及びブランド力向上に向けた取組	A		2	・全国紙への学長対談記事の掲載をはじめ、産技大10周年記念事業など、認知度向上に向けた積極的な取組が見られた。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・2大学1高専の認知度向上に向けた広報活動として、全国紙での学長対談記事(一面広告)等を掲載した。【4-26】			2	・2大学1高専のイメージと認知度の向上に向けた広報活動として、全国紙での学長対談記事(一面広告)を掲載した。
				2	・情報セキュリティ事故再発防止に向けた取組を継続している。 ・全国紙への学長対談記事(一面広告)をはじめとして、認知度向上のための多様な取組を行った。
				2	
				2	・個人情報保護及び情報セキュリティに関して研修会を開催した。 ・標的型攻撃メールに関する訓練を実施し、教職員の意識を高めた。 ・情報セキュリティ事故再発防止に向けて、外部専門機関による点検、専門業者による脆弱性の診断を受けた。 ・認知度及びブランド力の向上に向け、全国紙への学長対談の掲載を始め、様々な活動を実施した。
				2	・法人のブランド力の向上を図るため、全国紙への学長対談記事の掲載など、2大学1高専の認知度向上に努めた。

平成27年度 業務実績評価 項目別評価（素案）【各委員評価コメント付き】							評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
中期計画に係る該当項目		Ⅷ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 施設設備の整備・活用等に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 （素案）		委員による評定及び評価コメント	
48 施設設備の整備・活用等に関する取組	【4-27】省エネルギー対策の推進(4-31再掲)		A	2	(評価書) ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー対策を推進した。 ・省エネの取組が着実に進んでいることは評価できる。	2		
	【4-28】次期施設整備計画(中期修繕計画)の取りまとめ		A			2	・省エネの取組が着実に進んでいることは評価できる。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー効果の高い機器への更新や教職員への節電意識啓発活動等を実施し、省エネルギー対策を推進した。【4-27】		(参考意見書)			2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー効果の高い機器への更新や教職員への節電意識啓発活動等を実施し、省エネルギー対策を推進した(平成27年度目標:基準排出量比17.0%削減 実績:26.8%削減)。	
						2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー対策を推進した。	
						2		
						2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス化の推進に向けて各キャンパスにおいて、取り組んでいる。エネルギー使用量の削減目標を設定している。 ・次期施設整備計画を取りまとめた。	
						2	・エコキャンパス・グリーンキャンパスの推進について、各キャンパスにおける部会及び推進委員会において、審議・決定を行った。	
中期計画に係る該当項目		Ⅷ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 安全管理に関する取組						
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 （素案）		委員による評定及び評価コメント	
49 安全管理に関する取組	【4-29】キャンパスのバリアフリー化の推進		A	2	(評価書) ・危機管理マニュアルの見直し、災害時対応ポケットマニュアルを作成、配布するなど、安全確保に向けた積極的な取組が見られる。 ・日野キャンパスの実験棟群をバリアフリー化するなど、ハンディキャップを持つ学生の利便性を図る工事を進め、大幅に改善されている。	2		
	【4-30】危機管理マニュアルの検証及び見直し		A			2	・危機管理マニュアルの見直しが行われるなど、安全確保に向けた積極的な取組が見られる。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・南大沢キャンパスにおいて、随時、大規模地震や感染症といった災害発生時の個別対応マニュアルを整備し、危機対応力の向上に取り組んだ。【4-30】		(参考意見書)			2	・南大沢キャンパスにおいて、随時、大規模地震や感染症といった災害発生時の個別対応マニュアルを整備し、危機対応力の向上に取り組んだ事により、該当者の防災意識の向上とともに、危機発生時の初動対応力等の強化がされた。	
						2	・災害時対応ポケットマニュアルを作成し配布するなど、危機管理体制の充実を図った。	
						2		
						2	・キャンパスのバリアフリー化を推進し、ハンディキャップを持つ学生の利便性を図る工事を進め、大幅に改善されている。 ・防災訓練を数多く行い、多くの構成員が参加している。災害時対応備蓄品の見直し・整備も行われている。	
						2	・首都大において感染症が発生した場合の初動体制や報告等の流れを整理した。また、南大沢キャンパスにおいて、災害時参集職員や外国人教員を対象とした災害時対応ポケットマニュアルを作成し、配布した。	

評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

Ⅷ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 3 社会的責任に関する目標を達成するための措置 (1)環境への配慮に関する取組						
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
50 環境への配慮 に関する取組	【4-31】省エネルギー対策の推進(4-27再掲)	A	2	(評価書) ・教職員への節電意識啓発活動等を実施し、省エネルギー対策を推進した。	2	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、教職員への節電意識啓発活動等を実施し、省エネルギー対策を推進した。【4-31】				2	
					2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、教職員への節電意識啓発活動等を実施し、省エネルギー対策を推進した。
					2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー対策を推進した。
			2	2	・エコキャンパス・グリーンキャンパスの推進について、各キャンパスにおける部会及び推進委員会において、審議・決定を行った。	
			2	・エコキャンパス・グリーンキャンパス化の推進に向けて各キャンパスにおいて、取り組んでいる。エネルギー使用量の削減目標を設定している。 ・次期施設整備計画を取りまとめた。		
			2	・エコキャンパス・グリーンキャンパスの推進について、各キャンパスにおける部会及び推進委員会において、審議・決定を行った。		
Ⅷ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 3 社会的責任に関する目標を達成するための措置 (2)法人倫理に関する取組						
評価項目	年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
51 法人倫理に 関する取組	【4-32】セクハラ・アカハラに対する取組等	A	2	(評価書) ・セクハラ・アカハラに対する取組として、相談員研修の実施や教職員・学生に対する研修を引き続き行い、意識の啓発に努めている。また、複雑な事案に対応できるよう外部専門家の活用体制が整備されたことは評価できる。 ・研究に関するコンプライアンス体制については、他大学からも情報収集を行い、規程の整備や研修など、積極的に取り組んでいることは評価できる。	2	
	【4-33】研究活動の不正行為への対応強化	A			2	・複雑な事案に対応できるよう外部専門家の活用体制が整備されたことは高く評価できる。 ・研究に関するコンプライアンス体制については、他大学からも情報収集を行い、規程の整備や研修など、積極的に取り組んでいることは評価できる。
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・相談員アドバイザーの設置及び法的な外部専門家の活用について体制を整備し、困難な事案について助言を得ながら対応した。【4-32】 ・研究倫理に関する行動規範、規則・規程を全面的に改定し、e-ラーニングによる研究倫理研修を実施した。【4-33】				2	・相談や申立事案については、相談員アドバイザーを設置し、体制を整備した。あわせて、困難な申立事案については、外部専門家に助言を得ながら、適切に対応する体制を整備した。
					2	・相談員アドバイザーを設置した。また、外部専門家(法律)の活用を可能にして困難な事案に対応した。
			2	2	・セクハラ・アカハラに対する取組として、相談員研修の実施や教職員・学生に対する研修を引き続き行い、意識の啓発に努めている。また、複雑な事案には外部専門家(法律)による助言を受けながら適切に対応している。 ・文科省が改正した「研究活動に対する不正防止」のガイドラインに対応して学内規定を改定した。また、日本学術会議の声明に準拠して「研究者の行動規範」を改正した。 ・CITI Japanの教材を用いて研究者倫理教育を対象者全員に実施した。	
			2	・平成27年7月から相談員アドバイザーを設置し、体制を整備した。合わせて、困難な申立事案については、外部専門家(法律)が活用できるよう体制を整備した。 ・2大学1高専でコンプライアンス教育、研究倫理教育(CITI Japanのe-ラーニング研修教材「責任ある研究行為ダイジェスト」)を実施した。		



評 定	1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を順調に実施している。 3…年度計画を十分に実施できていない。 4…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
--------	--

中期計画に係る該当項目		Ⅷ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 4 国際化に関する目標を達成するための措置 国際化に関する取組					
評価項目		年度計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価 (素案)	委員による評定及び評価コメント	
52 国際化に関する 取組	【4-34】国際化戦略に基づく発信力強化の取組等	A	2	(評価書) ・都市外交人材育成基金を活用し、19名の留学生受け入れるとともに、21名に学位を授与した。また、修了生を対象にした同窓会を開催するなど、ネットワークづくりと都市外交の目的が遂行されつつある。 ・海外の大学とグローバルPBLを実施することにより、国際プロジェクトの参加やマネジメント経験を通してグローバル人材の育成に寄与した。 ・国際化に向けた積極的な取組が見られ、なかでもHPの外国語ページのアクセス件数が増加していることは評価できる。 ・インドネシア、フィリピン、ベトナムとの経済連携協定(EPA)に基づき、来日している看護師候補者及び介護福祉士候補者の国家試験対策講座を実施するなど支援を行った。特に、本年度は看護師の国家試験合格率が全国平均を遥かに上回ったことは評価できる。	2		
	【4-35】国際交流事業に対する支援	A			2	・国際化に向けた積極的な取組が見られ、なかでもHPの外国語ページのアクセス件数が増加していることは評価できる。	
	【4-36】都市外交人材育成基金を活用した人材の育成	A			2	・都市外交人材育成基金を活用し、新たに19名の留学生を受け入れ、21名の留学生に対して、学位を授与した。	
					2	・HPの外国語(中国語、韓国語、英語)ページのアクセス数が年々増加している。 ・都市外交人材育成基金を活用して、19名の留学生を受け入れた。また、21名の留学生に学位を授与した。 ・海外の大学とグローバルPBLを実施することにより、国際プロジェクトの参加やマネジメント経験を通してグローバル人材の育成に寄与した。	
	【平成27年度における特色ある取組、特筆すべき優れた実績を上げた取組、その他積極的な取組】 ・都市外交人材育成基金において、新たに19名の留学生を受け入れた。【4-36】			(参考意見書)		2	
					1	・都市外交人材育成基金を活用し、19名の留学生受け入れる共に、21名に学位を授与した。また、修了生を対象にした同窓会を開催し、ネットワークづくりと都市外交の目的が遂行されつつある。 ・インドネシア、フィリピン、ベトナムとの経済連携協定(EPA)に基づき、来日している看護師候補者及び介護福祉士候補者の国家試験を支援した。特に、本年度は看護師の国家試験合格率が全国平均を遥かに上回ったことを高く評価する。介護福祉士については若干下回ったが、首都大は日本語のみの指導であった。	
					2	・都市外交人材育成基金を活用し、新たに19名の留学生を受け入れた。	